

ヨーロッパ渡航/ 研究室訪問とICAP 2018 国際会議の参加
物理工学専攻 博士課程1年 高橋 忠宏

この度ALPSのコースワークの一環として、日本学術振興会の特別研究員-DC1の研究予算で欧州4都市に7月11日から29日にかけて渡航する機会を得ました。Fatah Benabid教授(Limoges, 仏), Nicola Poli教授(Firenze, 伊), Davide Calonico教授(Torino, 伊)の研究室を訪問した他、Barcelonaで開催されたICAP2018に参加しました。今回の渡航の主な目的の一つは、IC-HCFと呼ばれる従来とは異なる光ファイバを用いた実験結果を、ファイバの開発者のBenabid教授に報告することでした。実験結果を伝える今回のミッションには、研究室を代表することの責任を強く感じました。

また、Poli教授は、昨春香取研究室を訪問された際のご縁をきっかけに、先生の研究室に1週間滞在する機会をいただきました。先生にはLENS研究所での発表の機会くださったり、他の冷却原子・レーザーの研究室を案内していただいたりしました。

Calonico教授の研究室の訪問、ICAP参加においても、現地の友人・先輩方に大変御世話になりました。ALPSを通じて、世界中の研究者と交流する機会をいただいたことを、この場を借りて感謝申し上げます。



(左) Limogesの街並み (右上) Poli教授と研究室の皆さん (右下)ICAP会議の様子